


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2023年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	白井 太一朗	会員番号	0036105	
申請者の所属・職名	大阪大学免疫学フロンティア研究センター・助教			
出席会議名	Keystone Symposia: B Cell Biology in the Context of Infectious Diseases, Autoimmunity and B cell Cancers			
発表論文タイトル	Inhibition of the COMMD3/8 complex suppresses humoral immune responses and autoimmunity			

実施結果:

この度は「2023年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award」に採択いただき、誠にありがとうございました。

本 travel award のご支援のもと、私は、2023年6月6日～10日に米国コロラド州キーストンで開催された Keystone Symposia (B Cell Biology in the Context of Infectious Diseases, Autoimmunity and B cell Cancers) に参加いたしました。本国際会議では、B cell biology において世界的に著名な研究者が一堂に会し、特に感染症・自己免疫・がんの分野に焦点を当てて、非常に活発な議論が行われました。

私は、B 細胞遊走に着目した自己免疫疾患の病態解明と制御に関する最新の知見 (Shirai et al., *Sci. Immunol.* 2023) についての演題を出し、幸運にも Short Talk に選出されたことから、ポスター発表に加えて口頭発表を行う機会を得ました。このような会議で口頭発表できたことは大変貴重な経験となり、また発表内容について第一線の研究者と議論し直接アドバイスをいただけたことは大きな財産となりました。さらには自身の研究に興味を持っていただいた研究者と共同研究の話しを進めることもできたことから、本会議での発表は極めて有意義なものとなりました。

また本会議に参加し、未発表のデータを含む最新の研究成果を聴くことで、世界の潮流に触れられただけでなく、自らの研究の立ち位置を再確認することができました。とりわけ私と同世代の研究者たちの本質的で深淵な研究発表は、私にとって非常に刺激のかつ衝撃的であり、これから私がひとりの研究者として取り組むべき課題について、見つめ直す非常に良いきっかけになりました。今回の会議参加で得られた全てのことを、今後の研究生活に活かしていきたいと思っております。

末筆とはなりますが、このような素晴らしい機会を与えてくださりました岸本忠三先生、選考委員の先生方、また推薦いただいた鈴木一博先生に、深く感謝申し上げます。